

2026年第2回新潟競馬特別レース名解説

<第1日>

○豊栄特別

豊栄（とよさか）は、新潟県中部にあった旧市名。1970年以来市制を敷いていたが、2005年に新潟市に編入された。

なお、同地区は新潟競馬場の所在地でもある。

○新潟日報賞

新潟日報は、新潟日报社より発行されている日刊紙。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

○清津峡特別

清津峡（きよつきょう）は、信濃川の支流である清津川が形成した峡谷。上信越高原国立公園に属し、左右に切り立つ巨大な柱状節理の断崖とその峡谷美により国の名勝天然記念物に指定されている。また、黒部峡谷、大杉谷とともに日本三大峡谷のひとつに数えられている。

<第2日>

○出雲崎特別

出雲崎（いずもざき）は、新潟県中部の町。家と家が重なり合うように軒を連ね、通りに面した大棟が直角になっている「妻入り」の街並みが有名。日本で初めて石油掘削の機械方式を用い成功した場所として知られる。特産品として紙風船が有名で、国内唯一の製造所があり、新潟県の伝統工芸品に指定されている。

○サマーマイルシリーズ 関屋記念（GⅢ）

全4戦で実施されるサマーマイルシリーズの第2戦。

旧新潟競馬場の所在地「関屋」の名を残すため、1966年に創設された重賞競走。当初は芝2000mのハンデキャップ競走として実施されていたが、1975年に距離が1600mに、1983年に負担重量が別定に変更された。2025年より再びハンデキャップ競走で実施されている。

旧新潟競馬場は新潟市関屋字青山下百間割にあったが、戦後長期間にわたって中央競馬は開催されていなかった。1960年代前半になると競馬再開の機運が高まり、1965年に新潟市東部の現在地に新たな新潟競馬場が完成し、22年ぶりに中央競馬が再開された。

○麒麟山特別

麒麟山（きりんざん）は、常浪川と阿賀野川に囲まれた新潟県東蒲原郡にある山。名は、中国の想像上の動物「麒麟」の姿に似ていることに由来する。山の頂上付近にある展望台からは、阿賀野川を一望できる。

<第3日>

○月岡温泉特別

月岡温泉（つきおかおんせん）は、新潟県新発田市にある温泉。大正時代、石油採掘中に温泉が噴出したことが始まり。硫黄成分の含有量が多く、エメラルドグリーンの色をした美人の湯として有名。

○柳都ステークス

柳都（りゅうと）は、かつての新潟市街地の呼称。1950年代半ば頃まで新潟市の中心部には堀が張り巡らされており、名は、その兩岸に柳並木が続いていたことに由来する。2002年には、新潟市中央区を流れる信濃川に架けられた橋梁である「柳都大橋」が開通した。

○燕特別

燕（つばめ）は、新潟県中部、越後平野中央部の市。市内には信濃川が流れる。金属加工業が盛んで、特に金属洋食器の生産が有名なことから、古くから「職人の町」と称されている。

<第4日>

○苗場特別

苗場（なえば）は、新潟県と長野県の県境にある上信越高原国立公園に属する標高2,145mの苗場山のこと。名は、山頂に点在する湖沼にミヤマホタルイが繁茂し、「苗代田」に似ていることに由来する。山岳スキーに適しており、南東の筍山山麓には苗場スキー場がある。

○サマースプリントシリーズ アイビスサマーダッシュ（GⅢ）

全6戦で実施されるサマースプリントシリーズの第3戦。

本競走は、2001年に創設された重賞競走。直線芝1000mを舞台に、3歳以上馬による別定重量戦で実施される。

アイビス（Ibis）は、「トキ」を意味する英語。トキは、国の特別天然記念物および新潟県の「県の鳥」であり、新潟競馬場の「アイビススタンド」の名称にも使用されている。

○五頭連峰特別

五頭連峰（ごずれんぼう）は、新潟県北部、五頭連峰県立自然公園内にある菱ヶ岳と五頭山を中心とする連峰。新潟競馬場の向正面奥に見える。周辺は温泉・キャンプ場・ゴルフ場などが充実しており、シーズン中は多くの観光客が訪れる。

<第5日>

○三面川特別

三面川（みおもてがわ）は、新潟県と山形県の県境にある朝日連峰を水源とし、新潟県村上市で日本海に注ぐ川。江戸時代から鮭の遡上で知られている。

○関越ステークス

関越（かんえつ）は、関東と越後を合わせた語。関東圏と新潟を結ぶ交通路である関越自動車道、関越トンネルなどに使用されている。関越自動車道は、東京都練馬区から埼玉県川越市・群馬県高崎市・新潟県長岡市を経て新潟市に至る新潟線と、藤岡で分岐し長野市を経て上越市に至る上越線からなる高速道路。関越トンネルは、関越自動車道の群馬県利根郡みなかみ町と新潟県南魚沼郡湯沢町の県境にあるトンネル。

○ダリア賞

ダリア（Dahlia）は、メキシコ原産のキク科の多年草。名は、スウェーデンの植物学者アンデシュ・ダール（Anders Dahl）に由来する。和名は、花の形がボタンに似ているため「テンジクボタン」。花言葉は「華麗」「優雅」。

<第6日>

○佐渡ステークス

佐渡（さど）は、佐渡島の旧国名で、五畿七道の北陸道七ヶ国のひとつ。また、佐渡島は、新潟県に属する日本海最大の島。世界文化遺産である佐渡金山をはじめ、尖閣湾や外海府海岸など観光地が多い。国の特別天然記念物に指定されているトキの純国産最後の生息地としても知られ、佐渡市内には佐渡トキ保護センターをはじめ多くの関連施設が置かれている。

○レパードステークス（GⅢ）

本競走は、3歳ダート適性馬の出走機会の拡大を目的として、2009年に創設された重賞競走。

レパード（Leopard）は、「豹」を意味する英語。古代ローマでは、豹の息には不思議な香りがあるとされ、それによって動物たちを狩ることができるかと恐れられていた。

○驀進特別

驀進（ばくしん）は、まっしぐらに進むこと。本競走は、競走馬がゴールを目指してまっしぐらに進む様子をイメージして名付けられた。

<第7日>

○阿賀野川特別

阿賀野川（あがのがわ）は、新潟県と福島県にまたがって流れる川。延長約210km。猪苗代湖に源を発する日橋川と尾瀬沼に発する只見川とが合流し、新潟市東部で日本海に注ぐ。流域には豊富な水量を利用した水力発電所が多く、電源地帯を形成している。

○上越ステークス

上越（じょうえつ）は、新潟県南西部の市。1971年に高田、直江津の2市が合併して誕生した。上越の名は、越後国を上方（京都）から近い順に上越・中越・下越としたことに由来する。

○三国特別

三国（みくに）は、新潟県南東部、南魚沼市の清津川峡一帯の通称。かつて三国街道に沿って三国三宿と呼ばれる宿場町があり、大いに栄えた。江戸時代の三国街道は、参勤交代路として関東（中山道の高崎以北）と越後を結ぶ、五街道に次ぐ主要な街道であった。

○新潟ジャンプステークス（J・GⅢ）

本競走は、1999年に創設された障害重賞競走。芝3200mのハンデキャップ競走として創設されたが、馬場改造工事に伴い、2001年から距離が3250mに、2009年からは負担重量が別定に変更された。ホームストレッチでは1周目に3回、2周目に1回の計4回障害飛越が行われ、競走馬の障害飛越を間近で見ることが出来る迫力ある競走となっている。

<第8日>

○稲妻ステークス

稲妻（いなずま）は、空中電気の放電によって生じる電光。また、それが雲に反映したもの。動作が非常にすばやいことや、時間が極めて短いことの例えにも用いられる。本競走は、稲妻の如くダイナミックに直線を駆け抜ける競走馬をイメージして名付けられた。

○NST賞

NSTは、新潟市に本社を置くNST新潟総合テレビの略称。1968年開局で、FNS（フジテレビ）系列。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

○瀬波温泉特別

瀬波温泉（せなみおんせん）は、新潟県村上市にある、日本海に面した温泉。泉質は塩化物泉。別名「熱の湯」とも呼ばれる。1904年に石油を掘削していたところ、温泉が噴出したことが始まり。同地はかつて、歌人の与謝野晶子が訪れ45首の歌を詠み残した場所であり、その名残として歌碑が置かれている。